

きっと見つかる、ずっとつながる笑顔の和

第20号
2023年
03月

わげん便り



松本家 キャロル



～目次～

- 2023 年度以降の当法人の取組について..... 1-2P
- 新年を迎えるにあたり、更生病院（渉外課紹介）3-4P
- SDGs、チャリティーコンサート.....5P
- 子供食堂、クリスマス会.....6P
- あの人、この人、こんな人（ワゲンの森八王子）7P



2023年度以降の当法人の取組について



社会福祉法人ワゲン福祉会

経営管理本部長

飯村 芳樹

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大が続き、世界情勢も不安定になる中で、暗いニュースも多く閉塞感が漂う世相となりました。しかし、その一方で、出口から照らされる光はただ待つのではなく、自らの歩みによって探すものだ気づかされる一年ともなりました。何事も自転車のペダルを漕いでいるかのように、ペダルを踏んでさえいけばなかなか転ばないものです。どのような方向に向けて、どう意識を整えて、どの位ペダルをこげばよいか、考えながら対応した職員一人ひとりのご協力のおかげでコロナ禍の難局を乗り越えてまいりました。本年も「思考と行動の停滞への挑戦」を続けてまいります。

このような時代だからこそ、私たちは福祉の基本的理念に立ち返り、忠実に「その方の意欲の種」に寄り添い花を咲かせる努力することにこだわり続け、変化する環境に誠実に向き合い続けることが重要だと思っております。

さて、2024年4月には、診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス等報酬が同時に改定されるいわゆるトリプル改定が行われます。昨年末には、防衛費を拡充するために、基本的な税制改革の考え方が与党で検討され始めたこともあり、政府一般会計の35%程度を占める社会保障関係費はマイナス改定の波にさらされる恐れも高まるでしょう。

こうしたマイナス改定の時に経営的な影響を軽減するためには、公的な事業については国の目指す方向（地域包括ケアシステムの醸成・科学的介護など）に寄せていながら定員規模を余すことなく稼働させていくことと併せて、自主事業として収益性を補完する仕掛けを必要とします。

私たちは、これまででも病院の急性期化・地域包括ケア病床の活用・病院機能評価の受審準備による組織マネジメントの強化と緩和ケアへの導線づくり、院内保育の地域開放による拡充、特養の自立支援介護の実践に向けた研究開発、重症心身障がい児者施設における空床フロアについて、新規入所者の獲得と通所事業（生活介護）での活用の双方の案で実現と継続性の確保に向けた検討と、そのための間口の機能を強化するべく就労支援事業所の開設、地域における公益的取り組みなどを行いながら、財務・財政上のバランスをとり法人を成長させてきました。

2023年度には、そうした取り組みをさらに推し進めていきます。

総合相模更生病院は社会福祉法人立という特殊な病院であり、他の病院よりも社会的な公器としての高い実践力・相談支援力や計画策定力と地域インフラとの連携力を強く持つことによって事業の成長性を高めていけるという特性があります。当院が対象とするドメインには緩和ケアを望む声も多くあり、今後の人口推計と地域内の医療・介護機能の状況からも一定数の緩和ケア機能を有することが成長性を高める要因となるでしょう。また、退院患者様の在宅復帰場所として自宅にお戻りになれないケースも増えていることから、リハビリや一定の看護を必要とする医療ニーズのある方や、要介護度が3以下で特養に入所できないで困っている方、軽度の認知症を患っておられる方、透析を必要とする方などが安心して住めるソーシャルワークに長けたナースホームとしての機能を持つ新施設を設置することも進めていきます。訪問看護や訪問介護、包括や居宅介護支援事業所などが連携して、この新たな受け皿を地域で活かしてもらうよう進めていきます。皆で一緒に作り上げていきましょう。



介護保険サービスは、科学的介護の深化が進む中で、自分達ならではの差別化をしていくことが求められていきます。

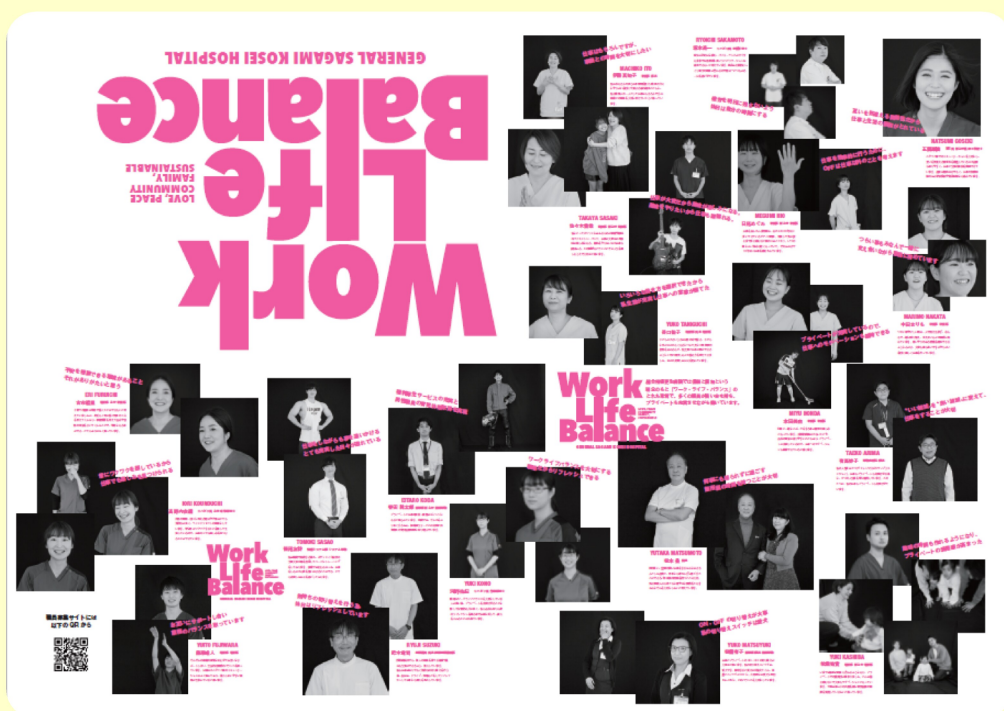
平成28年11月に当時の塩崎厚労大臣から「自立支援にしても科学的に分析をしたうえで、科学的に手法を開発していく。」という呼びかけがなされ、その6年後、令和3年度介護報酬改定において科学的介護は本格的に口火が切られました。

私たちは、介護保険制度設立の趣旨に立ち戻り、「年齢や心身状態に関係なく、同じように生活できる社会を作ろう」という基本的かつ社会的な共通理念に基づいて、『科学的な分析』に基づき『科学的に手法を開発』していくことが求められています。

具体的手法としては私の方で既に理論化・体系化して協力法人において実践していることから、当法人内でもいち早く学び実践に結び付けて頂くことが今年度の特養の目標であり、2024年度改定への準備として必須の取組になります。また、介護職については、処遇改善加算の事務処理の一元化と併せて、介護補助者の報酬上の評価も検討されている他、介護福祉士のリーダー要件の高まりや、サービス品質の向上を主眼とした生産性の向上の具体的な取り組みが問われていくことも想定されます。将来を見据えて適切な教育システムを整えていくことが必要であることから、介護実務を動画によってマニュアル化し、テクニカルな面でのサービス手法の統一化をすることで、自己流の使い方や操作学習のバラツキを無くし、業務自体の効率性を上げていく取組も進めていきたいと考えております。

障がい分野においては、コロナ禍で就労先や進路を失った方々が生活困窮家庭に陥る問題を少しでも軽減するべく、就労の機会を増やすことで大規模社会福祉法人としての社会的責任を果たしてまいります。病院や施設での環境整備を看護補助・介護補助業務として行う他、あふれかえる書類を電子データ化する業務などを実践し、施設のスペースを有効活用するだけでなく、短中期的には電子帳簿保存法などのICT化の流れに合わせた環境整備を推進しつつ、障がいの程度に応じながら様々な就労メニューの開発をしていきます。先々は、法人内事業所の食事で提供するお米は農福連携によって育てられた新米であることも目指して準備しており、当法人だけでなく社会福祉連携推進法人の設置によって様々な地域の事業者と連携して引き続き実現を目指してチャレンジしていきます。法人全体としては、ファンドレイジングを強化・拡大して、地域から多くのスポンサーが関わっていただけるようなイベントを増やしながら地域に愛され支えられる法人として、また、新規入職者から選ばれる法人となるよう広報も充実化していきます。

こうした様々な取り組みは、今後は次世代の牽引すべき人材が引き継いでいくことにもなります。2023年度以降も次世代の牽引者となる職員の育成と、法人のブランドカアップに向けて努力して参ります。今年も皆さんの力をお貸しください。一緒に良い一年を積み上げていきましょう。



(現在作成中の新パンフレットイメージ)

2023年を迎えるにあたり



社会福祉法人ワゲン福祉会
総合相模更生病院
病院長/法人事業本部長
松本 豊

昨年も一昨年に引き続き、法人の全施設が新型コロナウイルス感染症への対応、特に夏の第7波、その後には今だに収束の気配を見せない第8波への対応に大変な労力と時間を注いだ訳であります。各施設においては多くの職員が知らずも感染をしまい、不本意ながら最前線より離脱せざる得ない状況となりました。

病院においては、患者さん並びに職員のクラスター感染の発生により、閉鎖ないし休止病床が多く発生をしてしまいました。本来の病院の機能が確保できない状況下では有りましたが、全職員が全身全霊を持って日々の診療に取り組んで参りました。本年も変わることなく、当院での診療を御希望される全ての患者さんをお断りせず、誠意を持って対応していく方針を堅持致します。



さかのぼること昨年10月1日より、杉谷雅人センター長が中心となり、認知症疾患医療センターを更生病院内に開設致しました。当センターは相模原市の委託を受けたもので、市内では北里大学病院に続き2番目の施設となります。求められている業務は認知症に関する以下の内容となります。

- ①医師による診察、各種検査により鑑別診断を行う事とそれに伴う初期対応を行います。
- ②医療介護関係者等への研修会の開催することにより、かかりつけ医や介護従事者の認知症対応能力の向上に寄与します。
- ③認知症医療介護連携協議会の開催することにより、保険医療介護関係者、家族会、行政機関等により組織された協議会との連携を図ります。
- ④認知症医療に関する情報発信であります。相談の窓口については、当院の常勤職員である専門の精神保健福祉士、社会福祉士が担当する体制を整えております。



相模原市 認知症疾患医療センター
スタッフ

- 左) 社会福祉士 富岡 圭子
- 右) 精神保健福祉士 渥美 克己

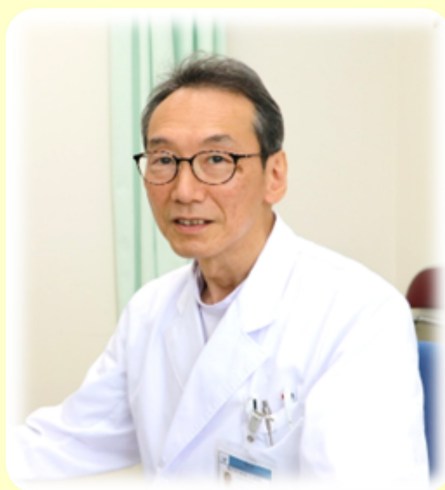
世界アルツハイマーデー
ライトアップ (オレンジ色)



御承知のように、認知症は誰もが発症する可能性のある疾患であります。我が事と考え、患者さんが威厳を持って生活していくことが出来ること、あるいは適切な援助を受けて安心して生活を送ることが出来ることを目標と致します。院内各部署の垣根を超えて、病院全体としてセンターの運営に協力をしていく体制を構築していきたいと思っております。

患者さんの受け入れを含めた入退院支援機能の一層の充実、訪問看護ステーションの拡充、患者サポートセンターの立ち上げの準備については、昨年の年頭にお伝えをした通りです。院内部門を総括し、患者さんあるいは御家族がサポートセンターにお越しになれば、入退院に関すること、退院後のサービス導入等について単一の窓口で完結できるような体制の確立を目指していきたいと考えています。それと併せてコロナ禍後を見据えた、225床の急性期病院としての稼働体制を構築して参ります。

私は、本年も当法人の事業本部長として、病院長として現場の最前線に立って皆さんと共に力を合わせて、法人並びに病院の成長のために努力を続けて参りたいと思っております。今後もこのコロナ禍がどのように推移していくかは予想が付きません。昨年は新型コロナウイルス感染の拡大のうねりである、第7,8波に見舞われたことは前述の通りです。ウクライナでの戦争が始まり、食料品やエネルギー価格の高騰など、混沌とした1年でもありました。世の中の流れに抗うことは困難ですが、現在の厳しい時代においても法人職員とその御家族を守る事に全力で取り組んで参る決意です。皆で力を合わせて努力していくことにより、新しい風景を見ることが出来るであろうと確信をしております。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



略歴

日本認知症学会専門医・指導医
日本認知症予防学会専門医
日本脳神経外科学会専門医・指導医
日本脳卒中学会専門医
日本頭痛学会専門医・指導医
厚生労働省認定 認知症サポート医

相模原市初期集中支援チーム員

センター長 杉谷 雅人 医師

更生病院 渉外課の設立について



社会福祉法人ワゲン福祉会
総合相模更生病院

渉外課 奈良 明洋

2022年3月より総合相模更生病院で渉外課が設立しました。

渉外課といってもあまり聞かない言葉でもあり、イメージがつきにくいのが現状です。一般的に企業ですと営業職となり、業種によって異なりますが、売り込みをして利益を追求していく事に対して、医療機関では、積極的な売り込みではなく、顧客との関係性を高める事が大きな目的となります。

その為、言葉にも注意しないとイケません。例えば、医療機関では、『何か当院でお手伝いできる事はありますか』に対して、企業では『これくらいお安くすることができますので、検討を宜しくお願い致します』のように、交渉といっても言い方ひとつで違いが出てきます。

渉外課の活動としては、健診センターにて健康診断を受けて頂く方を、一人でも多くの方に受診して頂くよう、企業等に訪問。又、PET検査を受けて頂く件数を増やしていくため、保険分・自費分含めて関係各所との連携・獲得するためご挨拶・新規訪問を行う事がメインとなります。

病院として、さまざまな交渉や関係性を維持をする為対応をいたします。今後、関係部署にご相談をさせて頂く事もありますので、その際はご協力の程宜しくお願い致します。

SDGs



相模原市長 本村 賢太郎



2022年12月21日、相模原市長室で昼食を取りながらの情報交換会に参加しました。

島田事務長と伊藤看護部長と参加し、ワゲン福祉会の事、コロナの事、相模原北口開発の事等の話題をしながら食事をしました。相模原市へ小田急線を乗り入れるためには、課題が沢山あり大変なお話が印象的でした。開発のエリアにある当院も、一緒に取り組んでいけることがあれば力になる所存です。

「誰ひとり取り残さない！」という相模原市のテーマは、当院の「断らない医療」にも繋がるとおもいます。相模原市と共に、地域医療という分野でこれまで以上に貢献したいと思います。

総合相模更生病院 事務長補佐 有馬妙子

更生病院 チャリティーコンサート

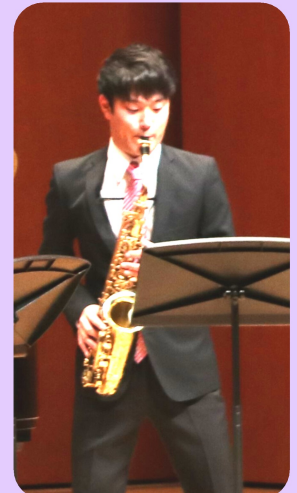
2022年10月23日（日）神奈川県相模原市橋本「杜のホールはしもと 大ホール」にてチャリティーコンサートが行われました。当日は、観客が約100名のご参加、多数の寄付金ありがとうございました。今回は「神奈川県立相模原中等教育学校 吹奏楽部」約70名の御協力のもと、演奏を行っていただきました。



ピアノ) 橋本 智菜美

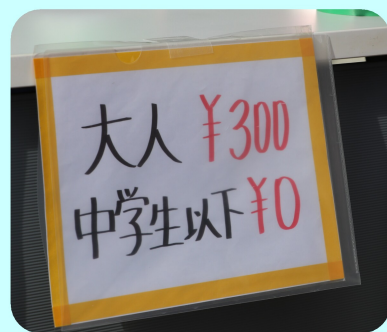


クラリネット) 平井 歌恋



サクソ) 渡邊 真大

だれでも食堂フルーツポンチ



毎月1回、だれでも食堂フルーツポンチを開催しております。中学生以下は無料で、場所は相模原市小山公民館です。総合相模更生病院と小山包括支援センターで協賛をしております。毎回50食のお弁当は即完売。いつも人気となっております。

お問い合わせ先：総合相模更生病院 総務課 有馬

わげん保育園 クリスマス会



2023年12月23日、わげん保育園にてクリスマス会が行われました。園児たちは、サンタクロースの登場に大歓喜していました。親御様には、当日の様子DVDの貸し出しも行いました。関係者の皆様、御協力ありがとうございました。

『あの人 この人 こんな人』

わげん便りシリーズ企画といたしまして、各法人の人物紹介を行いたいと思います。

1. 今の職業に就いた理由を教えてください。

看護助手として働いていた頃に介護福祉士の資格取得をしましたが、もっと資格を活かせる職場で働きたいと思い、2014年にワゲン新横浜へ入職しました。

入職から約8年ワゲン新横浜でお世話になり、老人介護の知識・技術面だけではなく、利用者さんとの関わり方や介護福祉についてたくさんの事を勉強させていただきました。数年前に身体を痛めてしまった事もあり、介護福祉の仕事が続けるか退職するか考えてた時にワゲンの森八王子開設を知りました。

様々な事情を抱えても、福祉の仕事に携わっていけるよう、障害者福祉という新たな分野にチャレンジしてみたいと思い2022年5月に法人内異動という形を取っていただき、現在に至ります。



ワゲンの森八王子 指導員
有馬 朋子

2. 趣味を教えてください。

好きなアーティストのライブに行ったりするのがストレス発散で趣味です。

ダンスボーカルグループが特に好きで、J-POPだけでなくK-POPグループのライブ参戦が趣味でしたが・・・コロナ禍ですっかり機会が減ってしまったので、今は映画や動画を観たり音楽を聴いたり、自宅でのんびり過ごすのが趣味です。

3. 今後の抱負を教えてください。

異動して半年ほどですが、現場での業務だけでなく事業所の管理・運営についてや、介護福祉と障害者福祉の違いなど知らない事がまだまだたくさんあり過ぎて勉強不足だと実感しています。七原施設長をはじめ、職員の皆さんと利用者さんに助けられながらではありますが、多岐にわたる業務に奮闘中です。人員不足の中、新たな分野にチャレンジしたいという身勝手なお願いを聞き入れて送り出してくださった、青木施設長をはじめとする【ワゲン新横浜】の皆さんに感謝するとともに、介護福祉士として得た知識と経験を活かして1日でも早く【ワゲンの森八王子】と利用者の皆さんのお役に立てるよう、職業指導員として頑張りたいと思います。